



四国防災八十八話

第八十七話 電信柱に救われる

監修・著作：愛媛大学防災情報研究センター

作画：村上 由夏（愛媛大学美術研究会）

これは、平成16年の台風の際に、私が体験した話です。

10月、香川県さぬき市を台風23号が襲いました。

私の住む大川町でも、大雨が降り続けていました。

**ゴォゴォという音に、家の外を見てみると、
前の畑から、凄い勢いで水がどんどん
庭に流れ込んで来るではありませんか！**



玄関を開けると、水位は、膝の下にまで迫っています。
風も強く、雨も止む気配がありません。

“このまま家には危ない！
早く避難しなくては！！”



私は、身支度を調べると、土砂降りの雨の中を、避難所に向かって歩き始めました。

雨で視界も悪く、泥水が勢いを増す中、私は足を取られそうになりながらも、一歩ずつ慎重に進んで行きました。

その時、

ゴォーーーーー!!

突然、小石などが混じった大水が一気に流れてきたのです。



私は、どうすることもできず、
あっという間に押し流されてしまいました。

とっさに目に入った電信柱に手を伸ばし、
無我夢中でしがみつきました。

“おい。 大丈夫かー？”

声のする方を見ると、知り合いが棒を持って叫んでいます。

“この棒をつかむんだ！！”



差し出された棒に、必死につかまり、
どうにか水のない所まで上がりました。

“もう駄目かと思った。本当に助かった。
ありがとう、ありがとう”

私は何度も感謝をしました。



やっとの思いで、避難所にたどり着いた時には、
辺りはすっかり暗くなっていました。

集まった近所の人たちの無事な顔を見たときは、
本当にホッとしました。



しかし、雨は一晩中降り続き、
雨と風が窓をガタガタと鳴らし、
外では、水がゴウゴウと音を立てて流れています。

その日は、恐ろしさで、
みんな眠ることができませんでした。



翌朝、外に出てみると、街の無惨な光景が広がっていました。

雨があがり、水もかなり引いてはいましたが、何トッもありそうな大きな岩が、そこかしこにゴロゴロと転がっています。

また、私を救ってくれた電信柱も流されてしまっていました。

洪水の恐ろしさを改めて思い知るとともに、もしあの電信柱がなかったら、私も今頃洪水に流されてしまっていたかと思うと、今でもゾッとします。

災害時には、思いもよらない事態に陥る事もあるので、油断することなく行動することが重要だと考えさせられた経験でした。